

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472100914	事業の開始年月日	平成15年7月1日	
		指定年月日	平成18年4月1日	
法人名	特定非営利活動法人グループホーム虹の会			
事業所名	グループホーム虹の家			
所在地	( 248-0024 ) 神奈川県鎌倉市稲村ガ崎四丁目5番19号			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名	
		ユニット数	1ユニット	
自己評価作成日	平成26年2月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年5月7日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1472100914&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyou-kanagawa.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=1472100914&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・昼間の職員の人数は法定より1人程度多く、入居者一人一人のニーズに対応出来るようにしている。
- ・入居者一人一人が朝1日を気持ちよく始められ、日中の活動を十分にし、満足して1日を終わり、夜安心して休んでいただけることを目標に日々努力している。
- ・一人一人に合わせた自然な形でのケアを心掛けている。
- ・地域との交流の場を大切にし、地域の方々に講師にお招きし、近所の方のボランティアを得て活動している
- ・回想法を採り入れている。グループ回想法は、入居者が一堂に会してお互いに話し合う社会的な場を共有することにより、一人一人が満足した時を過ごすことができ、安心してグループホームを自分の居場所として実感していただけることを目標に実施している。
- ・住み慣れた場所で、穏やかな最期を迎えられるように、ターミナルケアに力を入れている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年2月21日	評価機関 評価決定日	平成26年4月11日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- 【事業所の概要】**  
 当事業所は江ノ島電鉄稲村ヶ崎駅から山側に徒歩5分ほどのところにある。近くには大きなお屋敷や竹林や山林があり、閑静な住宅街のはずれにある。10年前に地元の看護師達が志を持って立ち上げたNPO法人が運営する1ユニット2階建てのこじんまりしたグループホームである。
- 【認知症に対する理解】**  
 当初より行き場のない認知症の方々のために建てたホームなので、看取りのケースも希望すれば自然の成り行きと考えている。地元の医師や訪問診療医とも懇意にしており、医療との連携は強い。認知症に関しても「回想法」や「臨床美術」など先進的な試みをおこない、利用者の気持ちに沿えるよう常に勉強している。利用者の気持ちを優先した支援を行っている。
- 【地域貢献と近隣の協力】**  
 当初より地域に開かれた事業所として自治会に加入し、連携に務めてきた。小学生や幼稚園児との交流も盛んに行っている。毎年利用者の作品を展示する「作品展」を開催し、利用者家族だけでなく地域にも開かれたグループホームを目指している。近隣の方3軒とも交流を持ち、運営推進会議への出席や火災発生時の協力など依頼している。認知症サポーター講座や認知症フォーラムへの講師として参加するなど、認知症理解のための地域貢献も行っている。利用者家族も運営に協力的で、ボランティアや絵画教室などのお手伝いなど、できることで協力をしている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム虹の家
ユニット名	

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>・日々の気付きやケア実践の積み重ねを理念に基づいて介護計画に反映させ、サービス提供に活かしている。</p>	<p>看護師たちがNPO法人として立ち上げた想いを、理念として残している。事務所内に掲示し職員に配布する手帳の裏表紙に貼るなど、ことあるごとに理念に立ち戻よう話している。本人の出来る力「自力」を大切に支援している。毎年行われる職員の自己評価の最初の項目に理念に対する設問があり、職員への徹底を図っている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>・近隣幼稚園の誕生会に招待していただいている。毎日の散歩でも交流している。</p> <p>・地域の方には職員が率先して挨拶し、利用者と自然に交流出来るようにしている。</p>	<p>自治会に加入している。自治会からは利用者に敬老会のお知らせやお祝いの品が届く。職員が地域の防災訓練に参加している。幼稚園児が利用者の誕生日にお祝いに来所する。小学校の体験学習を受け入れている。ボランティアも書道、織物、絵画、三味線と多彩である。毎年、作品展を開催しているが、近隣からも多くの方が来訪している。近隣の自治会館で認知症サポーター講座を開催した。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>・幼稚園の父兄、職員を対象に認知症サポーター養成講座を開催。</p> <p>・地域介護支援機構、ケアマネ連絡会、NPOセンターなどに加入し交流に努めている。</p> <p>・地域の老人会と協力し、医師による認知症講座を開催。</p> <p>・小学生、高校生等のボランティアを受け入れている。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>・運営推進会議には、ご家族代表、自治会長、地区の民生委員などに参加していただいで活動への理解を深め、災害対策、レクレーションの内容等幅広く助言を頂いている。</p>	<p>2か月に一度奇数月に行われ、鎌倉市職員、地域包括支援センター職員、民生委員、自治会長、ご近所の方、家族代表が参加している。主に活動報告や行事の説明など行っている。防災や外部評価の話の他、近隣の方や民生委員からは認知症のケアや医療についての質問が多い。半年交代で全員の家族が参加できるよう工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営上不明なことについては速やかに市役所に相談している。</li> <li>・書類を市役所に直接持参するなどして、行き来する機会を積極的に作っている。</li> <li>・介護フェア、認知症フォーラム等、市の行事に積極的に取り組んでいる。</li> </ul>	鎌倉市職員が運営推進会議に出席している。窓口には議事録等を持参し、話し合える関係を作っている。他の介護サービスを使えるかなど、利用者の希望を相談している。市の主催する介護フェアに利用者の作品を出展した。地域の認知症フォーラムや認知症サポーター講座に講師として参加した。隔月で介護相談員の来所がある。		
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体拘束は行っていない。</li> <li>・身体拘束についての研修を実施している。</li> <li>・玄関の施錠については主に防犯上の観点から、家族等によく説明した上で行っている。</li> </ul>	職員に毎年身体拘束についての研修を行っている。講師に地域で活躍する家族会「りんどうの会」を呼び、家族から見る拘束や虐待についての勉強している。同会の冊子を読むように職員に指導している。現場ではご家族の気持ちを考えた言葉遣いについても常に注意を払っている。玄関は、鈴などで工夫することもあるが、奥まった地形にあるので、防犯のため施錠している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆとりある人員配置により、職員が虐待につながるような過度の緊張状態に陥ることがないように配慮している。</li> <li>・虐待防止研修を実施している。</li> </ul>			
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の権利についての研修を実施している。</li> <li>・利用者家族等が制度の利用を検討、あるいは必要と思われる場合には、適宜支援をしている。現在2名の方が成年後見制度を利用している。</li> </ul>			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約時は将来のことを含めて出来ること、できないことを明確に説明している。</li> <li>・契約改訂に際しては、十分な説明と話し合いの上で行っている。</li> </ul>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の運営規程、苦情申し立てについての説明文と共に意見箱を設置している。</li> <li>・介護計画の家族の意見欄を活用し、希望する事や、直接言にくいような事も伝達できるようにしている。</li> </ul>	<p>利用者家族は、半年交代で運営推進会議に参加し、意見交換している。毎年クリスマス会や作品展、利用者の誕生日に家族を招待している。昨年は10周年記念コンサートを聞きボランティアの演奏を楽しみ、家族同士の交流の場とした。来所の折にいろいろな意見を聞き、運営に反映させている。家族からの「寒そうだ」という声に、クリスマスに手作りのレッグウォーマーを全員にプレゼントした。複数の家族がボランティアとして来所し活動している。</p>	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝の申し送り、月2回の管理者及び職員全員を対象とするミーティングを実施している。検討内容を記録し、周知している。</li> <li>・休み時間や、親睦会等で忌憚のない意見を言えるようにしている。</li> </ul>	<p>毎月2回スタッフミーティングが行われている。議題が事前にわかるよう、事務所に提案書を張り出している。職員は議論してほしいことや提案などを当日までに書き込む。昼休みの自由な雑談も記録で残し、意見として反映させている。懇親会を年2回行い、環境づくりをしている。年に2回の面談前にアンケートを実施している。ゴミの出し方や事務所の整理など職員から多くの提案があった。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表者は管理者、介護者を兼務し、現場の目線で接し、理事会で常に話し合いを持っている。</li> <li>・資格取得者への手当支給、研修費用の負担等、意欲の喚起に努めている。</li> </ul>		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員が各種研修に参加できるよう、費用や時間の確保に努めている。</li> <li>・ケアマネの更新研修、新人研修等に参加している。</li> <li>・市主催の認知症ケア研修に職員が参加している。</li> </ul>		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神奈川県グループホーム協議会に加入し、研修、会議等に参加している。</li> <li>・かまくら認知症ネットワークに参加し、交流している。</li> <li>・他事業所との交流をしている。また、メイク教室等を計画している。</li> <li>・虹の家での作品展に他の事業所の利用者を招いている。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・家族からの聞き取りだけでなく、必ず本人と面談してその思いや不安などを受け止めるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・運営者は看護師としての経験も踏まえながら相談に乗り、丁寧な説明を心がけている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・事業所に空きが無く、実際のサービス提供ができない場合にも、誠意を持って相談に乗り、入居待ちをお願いしたり、他のサービスや事業所を紹介するようにしている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・尊敬の念をもって接するよう、言葉遣いには十分に注意し、認知症であってもふと現れる頼もしさ、優しさ、思いやりの心などに感謝を示すようにしている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・折に触れて本人についての現在、過去の情報を共有している。 ・各利用者の誕生日会を催し、家族と共に祝い、歌うなどしている。 ・家族による思い出話等の中にも、ケアのヒントを見出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の方にとっての馴染みとは、記憶の中のものであることが多い。本人が幸せを感じることができるよう支援している。</li> </ul>	<p>10年経ち、知人の訪問や馴染の場に行ける利用者は少なくなった。月1回ボランティア講師の方に来ていただき、テーマを決めて「回想法」を実施している。イベント時のほか平日でも家族の来訪が多く、家族も洗い物や絵画教室のボランティアとして活動してくれている。職員が一番の馴染になっており、日々の生活を楽しんでいる。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食卓では仲の良い方同士が会話を楽しみながら食事できるよう席順を配慮している。</li> <li>・1階、2階のホールを整備し、ゆったりくつろげる環境を整えた。</li> </ul>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退居された方のご家族にグリーンレターとお花をお送りするようにしている。</li> <li>・希望される方には催事等に参加できるよう、たよりをお送りしている。</li> <li>・家族懇親会にお呼びしている。</li> </ul>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の申し送りの中で、個々の細かい状態を確認しながら話し合い、希望通りの生活が困難になった方にも、出来る限り希望に添えるよう配慮している。</li> </ul>	<p>月1回行う「回想法」は、一人ひとりの思いを聞く機会としている。日々の暮らしの中で瞬時に変わる気持ちをつかみ、希望を叶えるよう努力している。意向の把握が困難な方には動作や表情でくみ取れるよう、工夫している。職員は業務日誌やカンファレンス、昼休みの雑談などで情報を共有している。一枚の「利用者一覧表」に全員の情報をまとめ、ケアに役立てている。</p>	
24		<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人の生活状況、趣味趣向、性格、生い立ち、土地柄、時代背景などの情報をご家族からお伺いしている。</li> <li>・回想法での発言や日々の会話、生活の中の気づきを職員間で共有し、ケアに活かしている。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・睡眠時間、食事の摂取量、バイタルチェック、清潔の保持、更衣の見守り、レクや家事の遂行等、一人一人の現状に合わせて支援している。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ICFの視点を採り入れた諏訪さゆり氏のケアプラン立ち上げシートを利用し、各職員の意見を聞きながら介護計画を作成し、必要に応じて随時見直しを行っている。	「ケアプラン立ち上げシート」を利用し、カンファレンスなどで職員や看護師の意見を聞きながら介護計画を作成している。家族には毎月のお便りの他、利用者の様子を担当者が詳細に手紙にして報告している。家族の意見は原案に直接記入してもらっている。モニタリングは日々の介護経過に記入し、6か月ごとに評価を行い、目標の見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎月前月分の記録をまとめて読み返し、ご家族へのお手紙にまとめる作業を通して、次の介護計画や日々の実践に反映させている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・遠方にお住まいなど、ご事情のあるご家族には、必要に応じて通院に付き添っている。 ・外出が好きな方を対象にドライブに行くなどしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・消防や自治会と連携して防災訓練を実施している。 ・近隣の幼稚園と日常的に交流している。 ・ボランティアがお散歩やレクなど支援してくれている。 ・近隣の高校生の体験学習を受け入れている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族とを相談の上、近隣の提携開業医や提携病院等の受診を支援している。</li> <li>・通院が難しい方には月2回訪問診療を受けている。</li> </ul>	<p>通院がむずかしい13名の方は協力医が往診し、6名の方には主に職員が付き添って受診している。専門医への受診はボランティアや家族、職員が付き添い、家族へは担当者から毎月手紙や電話で報告している。職員同士は介護記録や業務日誌で情報を共有している。管理者が看護師なので、訪問診療の医師とは連携が取りやすい。</p>	
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員2名（常勤1，非常勤1）が看護師で、毎月各利用者毎に看護計画を立て、必要なチェックを行っている。</li> </ul>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院時には可能な限り職員も同行し、医師の説明の時は家族が許せば同席している。</li> <li>・退院に向けてご家族の希望や医師の意見を聞く機会を設け、リハビリの様子などを見学している。</li> </ul>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターミナルケアについての指針を設定し、年1回アンケートを実施している。</li> <li>・個々のかかりつけ医には、当事業所の方針について話して了承を得ている。</li> </ul>	<p>看護師が立ち上げたNPO法人として、看取りは当たり前のようになっている。「ターミナルケアマニュアル」を作成し、家族には入所前に説明している。毎年家族に意思確認のアンケート調査を実施、希望する方には十分な話し合いを行っている。職員も「死」を語ることを特別のものしないよう、年に2回近隣の住職に講和に来てもらい、利用者家族と共に聞いている。すでに昨年2名の看取りを行い、現在も重度化した利用者について医師と連携を取っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・定期的な訓練は行っていないが、想定される事態に対処するための研修等を随時実施している。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年2回、防災訓練を実施している。その際地域の方にも声をかけ、避難誘導など協力していただいている。 ・火災通報装置に近隣住民への通報を登録している。	10月と2月の年2回夜間想定防災訓練を行っている。近隣の方の参加も得て実際に利用者の避難誘導を行っている。火災通報装置には近隣職員、近隣の住民3名、管理者の順で自動通報できるようセットされている。3日分の水、食料品の他、防災ずきんやランタン、カセットコンロ、移動脱出用の「おんぶラック」、手動ラジオなどがあり、ラジオは東北大震災の時とても役に立った。自治会の避難訓練に職員が参加している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人一人のプライドを尊重し、注意深く言葉掛けをしている。特に排泄に関することは、メモを用いて連絡を行い、職員が常に確認出来ると共に匿名性を確保している。	呼びかけに必ず「さん」をつけて呼んでいる。居室に入室する際は、利用者がいてもいなくても日頃からノックを習慣づけている。排泄誘導時などは言葉を選び誘導している。情報も名前を出さずにメモを使い職員間で共有するなど配慮している。言葉かけは敬語を使うよう指導しており、家族が聞いて気持ち良い言葉遣いを心掛けている。個人情報が入った書類は、鍵のかかるロッカーや机の引き出しに保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・何かを行う前には、個別に希望を伺うようにしている。質問を工夫し、答えやすいようにしている。 ・折り紙の色や、塗り絵の柄など、好みの物を楽しく選ぶ機会を作っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・朝は好きな時間に起きる。みんなで一緒に食事したい人は食事時間に間に合うように起きられるよう支援している。 ・入浴も毎日入りたい方はそう出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの家族に依頼して、好みの衣類や愛用の化粧品等を用意していただいている。</li> <li>・5月には、メイクの専門家にお化粧をしてもらい、母の日の感謝を伝えた。</li> </ul>		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好みに合わせた献立の工夫をしている。味覚が低下しているため、見た目にも楽しめる工夫をしている。</li> <li>・美味しいと感じやすい甘味は強くしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>金・土・日曜日は職員が調理を行うが、それ以外の日はレトルト食品を業者から配達してもらっている。2名の職員が利用者と共に食事をしながら、介助を行っている。彩りを工夫し季節の物を取り入れるなど、食欲が増すよう工夫している。当日も菜の花のあえ物や錦糸卵で彩りも美しく、季節感が感じられる食事を提供していた。ムース食やヨーグルトなど工夫がみられた。外食は出かける機会が減ったが、出前の寿司は楽しみになっている。利用者はおしぼり作りやお皿拭きなどを手伝っている。</li> </ul>	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嚥下の悪い方にはトロミ剤を使用、堅いものが食べられない方にはミキサー食、ムース食を用意し、摂取量が改善した。</li> <li>・暑い日には約一時間毎に50～100ml摂取を心がけている。</li> <li>・極端に摂取量が低下した場合は、詳細な記録を取って家族、医師に報告している。</li> </ul>		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力的な負担が大きいため、毎食後のケアは行っていない。起床時と就寝前に丁寧な口腔ケアを心がけている。</li> </ul>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの方に合った排泄時間に合わせたトイレ誘導などを行っている。</li> <li>・歩行の困難な方には夜間居室にポータブルトイレを設置するなどしている。</li> </ul>	<p>トイレは1階に2か所ありうち1か所は風呂場に、2階の3か所のうち1か所はシャワー室に続いている。あからさまなトイレ誘導は行わないことを職員は徹底している。パターンを把握し、個別に誘導時間を決めている。排便についてはこまめな薬のコントロールを実施している。夜間は睡眠を優先し、パット交換だけにする工夫も行っている。</p>		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の散歩や体操を行い、繊維質のものを食事に取り入れている。</li> <li>・乳酸菌飲料を飲むなど、水分補給に努めている。</li> </ul>			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人一人の希望や身体状況に合わせて、時間帯や回数、入浴の形態、介助の程度などを考慮し、入浴を楽しめるよう支援している。</li> <li>・お好みに合わせて入浴剤、温泉の素等を使用している。</li> </ul>	<p>毎日入りたい利用者は現在はいないが、対応もしていた。入りたくない利用者には、職員を替えたり誘導の言葉がけを工夫することで、入浴の支援をしている。入浴剤を利用したり、季節の菖蒲湯やゆず湯など、楽しく入浴できる工夫をしている。</p>		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人が希望すればいつでも横になれるようさりげなく声かけ、見守りをしている。</li> <li>・重度円背の方には、特殊マットを使用している。</li> <li>・眠れない方にはホットミルク等をお出ししている。</li> </ul>			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・服用中の薬の一覧表を看護師のチェックの下で作成し、活用している。</li> <li>・新しい薬が処方された場合は、症状を観察、報告している。</li> <li>・降圧剤の中止に際しては、医師と連絡を取りながら対応した。</li> </ul>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日に一度はみんなで歌う機会を設けている。</li> <li>・座ったままで出来る仕事、立ってする事など、それぞれの能力に応じて家事に参加出来るよう支援している。</li> <li>・能力に合わせ、庭仕事等に参加していただいている。</li> </ul>		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日、散歩に出られるよう支援している。</li> <li>・少し遠くまで外出する機会として、数人ずつに分かれてのドライブをしている。</li> </ul>	毎日5分から10分の散歩や外気浴を行っている。今まではご家族の応援を得て小旅行をしたり外食にも行っていたが、重度の方が少しずつ増え、全員で外出することは難しくなった。少人数でのドライブや介護タクシーを使った外出などで工夫している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の進行によって、金銭の管理、使用が困難なケースが増えてきている。それぞれ状態に応じて、お金の不安を解消できるように支援している。</li> </ul>		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人の希望通りに電話をしてもらった結果、家族に過度の負担がかかってしまった例があり、電話をせずに安心して頂けるよう支援している。</li> <li>・それ以外はかける場合もある。</li> </ul>		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建物自体が一般の住宅の様な作りであり、安心して生活できるよう配慮されている。</li> <li>・各部屋に温湿度計を設置し、調節に活用している。</li> <li>・1階、2階のホールにエアコン、ソファを設置し、共に過ごせるようにした。</li> </ul>	玄関ホールは明るく来客用のいすがあり、家族が来てゆっくり談話できる。1階には居間と台所、風呂がある。居室は2階になっている。居間も明るくピアノが置かれている。造りつけの飾り棚には書籍や雑飾りなどが置かれ、家庭的な雰囲気が漂っている。日中はほとんどの利用者が居間で過ごしている。2階ホールには夜勤者がくつろぐ畳スペースがあり、夜間の見守りの場となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が自由に外気浴出来るよう玄関前にベンチを設置している。</li> <li>・居間にはソファを設置し、ゆったりと過ごすことができる。</li> </ul>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の居室の備品は本人の好みにあった、あるいは使い慣れた物をご家族に持参していただいている。</li> <li>・混乱を招く場合等、必要に応じて整理している。</li> <li>・ご自分でテーブルを部屋から出されたケースもあった。</li> </ul>	<p>全居室が窓に面しており、明るい。冷暖房装置と電灯は備品として設置されている。利用者は使い慣れたベッドや整理ダンス、机、三面鏡、カーテンなどを持ち込んでいる。家族の写真や趣味の品など飾り、居心地良い空間となるよう工夫している。各部屋の入り口には手作りのかわいい表札が飾られている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日めくりカレンダーを3カ所に貼り、常に日付が確認できるようにしている。</li> <li>・夜間排泄の混乱がある方にポータブルトイレを用意したところ、混乱がほぼ無くなった。</li> <li>・危険があると思われる場合は、キャッチアップセンサー等を使用して安全確保に努めている。</li> </ul>		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名                                 グループ 木 七 虫 29 家

作成日                                 平成 26 年 5 月 2 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	(48)	坐位での生活でも楽しめるアクティビティについて、職員のワークロードが抑えられ、皆様に完全に楽しんでもらえることに取り組む。	お一人お一人が楽しく過ごせる。	1. アクティビティのメニューを増やして能力を身に付ける(文献・参考書、お互い同業者との交流を通じて等) 2. お一人お一人に合わせてアクティビティをスムーズに行える様取りをつける 能力を身に付け、評価をする。	6ヶ月
2	(2)	記録に十分な時間の必要と認められ、そのための準備がなされていない。	・ケア改善に結びつくような記録方法について学び。 ・レポートの記録方法が簡潔である。	1. 外部研修に参加する 2. スタッフミーティングで目標達成の項目に話し合う	6ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

